

きくちのまんま有機支援センター旭志が2部門受賞

熊本県耕畜連携推進協議会が主催する「熊本県堆肥共励会表彰式及びスキルアップセミナー」が2月27日、熊本市で開かれました。県内各地の農業者・農業団体関係者・行政関係者など約60人が出席。第28回目となる令和6年度は、畜産農家や堆肥センターから107点の出品があり、成分分析、発芽試験、現物審査（色相、形状、臭気）、製造方法（副資材、堆積日数、切返し回数）などで入賞者が決定されました。県内の堆肥生産のレベルアップを目指し、毎年開かれています。

JA菊池「きくちのまんま有機支援センター旭志」が畜種部門（熊本県畜産協会会長賞）の肉牛部門と作物部門（熊本県農業協同組合中央会会長賞）の2部門で受賞しました。また、耕畜連携部門（熊本県耕畜連携推進協議会会長賞）で妻越耕畜連携組合が受賞しています。



※この堆肥共励会は、堆肥生産者が堆肥を客観的に評価し、肥料成分等を知る上で良い機会となっています。例年6月頃に、出品者を募集。興味を持たれた方は、広域本部（地域振興局）農業普及・振興課にお問い合わせください。堆肥共励会に出品していない耕種農家の方でもセミナーの聴講が可能です。（熊本県耕畜連携推進協議会より）

菊池地域酪農政治連盟全体研修会

畜産部酪農課

菊池地域は西日本トップの生乳生産基地！

菊池地域の酪農家で作る菊池地域酪農政治連盟が主催する「全体研修会」が3月10日、菊池市で開かれました。農林水産省九州農政局次長渡辺裕一郎氏が「九州・熊本の酪農をめぐる情勢～課題と対策～」と題して講演。酪農家34人の参加がありました。講演内容の一部を紹介します。

■菊池地域は西日本有数の酪農地帯であり、県内生産1位。熊本県における農業産出額ベスト10では生乳が4位。全国の地域別生乳生産量は1位北海道、2位関東・東山、3位が九州で、九州では熊本が断トツ1位。熊本の酪農は西日本トップであり大消費地に生乳等を供給する一大生産基地。熊本県酪連は、生乳の安定供給・需要調整という重要な機能を発揮しています。このような現状を再確認し、酪農・乳用牛生産の健全な発展と乳牛・乳製品、肉牛の安定供給に向けた取り組みや施策の方向を示す「酪農および肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」や、生産者に取り組んでほしいことなどの話がありました。



読者の皆様へ

酪農経営は飼料をはじめ資材価格の高騰など、いまだ厳しい状況を強いられており、廃業される酪農家も増えています。そんな中、菊池地域酪農政治連盟としては現状を把握し、国への要望も県酪連と共にしています。また、熊本県酪農青年部協議会・女性部協議会が協力し酪農情勢活動（酪農を理解してもらうための体験イベントなど）も実施しています。菊池地域管内でも牛乳の販売促進活動などを行っています。6月には大津町の酪農家から発信した「父の日に乳をおくろう」キャンペーンも県内・全国に広がり毎年開いています。

牛乳を飲んで酪農家を応援しましょう！

※アイスなどのおいしい乳製品も多くは生乳を原料につくられています。

子どもの1日に必要なカルシウムは牛乳3杯分！

牛乳に含まれるカルシウムは、骨の成長や健康な体の形成に必要不可欠。1日に必要なカルシウム量は650～1,000mgです。

給食のない休日は、おうちで牛乳を飲もう。

しかし給食のない日、おうちで牛乳を飲まない家庭では、小中学生のカルシウム摂取量が減っています。

谷言葉は「土ミルク」！

土に育った牛乳を飲む。こんな言葉を伝えることで、食育や健康にもつながります。ぜひ実践してみてください！